

マーチ
行進曲（或青年）

希望もなく、絶望もなく見上げる青空に
清澄な行進曲が流れ、運動だけがある

全ては高く幽かで爽やかだ
俺がどんなに手を伸ばしても届かぬことが何故か嬉しい

その遥かに高い透明な場の上を歩くのは
そっと、彼方の一点目指して歩いてゆくのは、あれは少年だ

重々しいティンパニが刻むリズムも、コントラバスの呻きも
あの高さの故に軽やかで晴れ晴れと楽しい

地上のあらゆるざわめきとは全くか関わりなく
あの少年は確かに何時でも歩いていた

どうして俺があそこへ昇ることを望もうか
ただ、何時でもあの少年があそこを歩いていることが嬉しい

羨望も、ましてや嫉妬もない心が時折見上げる青空には
透明で厚みのある行進曲が必ず流れている

敗北と、諦めと、高踏と、虚無と君等は叫ぶか？
ならば答えよう、俺が戦うのは地上にてである、と

焦燥は消え去り、俺は行進曲をとらえた
死が瞳を濁らせるまで俺は地上を歩くだらう、それを抱いて

これが私の初めての自負だった
そうして清澄な響きのひとつとして溶け込んだ
そして遂に限りない哀しみと溶け合った

*

遥かな地平を見つめていた青年が、ふいに私に投げかけた視線を
その、力に満ち満ちた雄々しい戦いの眼差しを
恐怖に近い驚愕と共に、私は到底忘れることはできない

(1982.12.13)